



福島県

鶴島 一浩さん・孝子さん(刈宿)

取材者：一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム 高田

取材日：8月25日、9月21日

「南町団地は1つ。団地から孤独死を出さない」を合言葉に。集会所のイベントは月に15回。いつでも大入り満員です。



▲8月25日に開催された夏祭り
よさこい演舞の様子



▲団地の課題に日々奮闘中の一浩さんと孝子さん

団地の高齢者の皆さんは、私たちの両

孝子さん 昨年度は家賃補助の仕組みが

変わったため、手続きが分からなかった方の相談が多かったです。皆さんの喜ぶ顔

を見ることがうれし

いのですが、次から次へと来られると疲れてしまうこともあります。

孝子さん 団地の高齢者の皆さんは、私たちの両

一浩さん 昨年度は家賃補助の仕組みが

変わったため、手続きが分からなかった方の相談が多かったです。皆さんの喜ぶ顔

を見ることがうれし

いのですが、次から次へと来られると疲れてしまうこともあります。

孝子さん 団地の高齢者の皆さんは、私たちの両

一浩さん 昨年度は家賃補助の仕組みが

変わったため、手続きが分からなかった方の相談が多かったです。皆さんの喜ぶ顔

を見ることがうれし

いのですが、次から次へと来られると疲れてしまうこともあります。

孝子さん 団地の高齢者の皆さんは、私たちの両

一浩さん 昨年度は家賃補助の仕組みが

変わったため、手続きが分からなかった方の相談が多かったです。皆さんの喜ぶ顔

平成28年12月に入居開始になった南相馬市原町区の復興公営住宅南町団地。5棟255戸の大きな団地で代表管理人として日々奮闘されている鶴島一浩さん。今年8月には、管理人会主催で初めての夏祭りを開催。よさこいチームの演舞やライブなど内容盛りだくさんの夏祭りは、参加者が400人を超え、大成功を収められました。住民の困りごとや団地の課題に毎日向き合っているご夫妻にお話を伺いました。

一浩さん 団地の管理人だけでは大きいイベントはできないので、団地の各棟から5人ずつ協力者を募りました。最初は集会所で考えていたのですが、狭くて収まらないので、急きよ、

孝子さん 夏祭りは初めてのだったので、最初は人が集まるか心配でした。準備が進むにつれ、参加申込みが100人を超え、よさこい出演団体も3チーム、4チームと増え、そのうち、参加申込みが200人、300人と増えていき、途中からはうれ

しい悲鳴でした。

孝子さん 夏祭りは初めてのだったので、最初は人が集まるか心配でした。準備が進むにつれ、参加申込みが100人を超え、よさこい出演団体も3チーム、4チームと増え、そのうち、参加申込みが200人、300人と増えていき、途中からはうれ

一浩さん 団地の管理人だけでは大きいイベントはできないので、団地の各棟から5人ずつ協力者を募りました。最初は集会所で考えていたのですが、狭くて収まらないので、急きよ、

孝子さん 夏祭りは初めてのだったので、最初は人が集まるか心配でした。準備が進むにつれ、参加申込みが100人を超え、よさこい出演団体も3チーム、4チームと増え、そのうち、参加申込みが200人、300人と増えていき、途中からはうれ

しい悲鳴でした。

孝子さん 夏祭りは初めてのだったので、最初は人が集まるか心配でした。準備が進むにつれ、参加申込みが100人を超え、よさこい出演団体も3チーム、4チームと増え、そのうち、参加申込みが200人、300人と増えていき、途中からはうれ

一浩さん 団地の管理人だけでは大きいイベントはできないので、団地の各棟から5人ずつ協力者を募りました。最初は集会所で考えていたのですが、狭くて収まらないので、急きよ、

孝子さん 夏祭りは初めてのだったので、最初は人が集まるか心配でした。準備が進むにつれ、参加申込みが100人を超え、よさこい出演団体も3チーム、4チームと増え、そのうち、参加申込みが200人、300人と増えていき、途中からはうれ

しい悲鳴でした。

孝子さん 夏祭りは初めてのだったので、最初は人が集まるか心配でした。準備が進むにつれ、参加申込みが100人を超え、よさこい出演団体も3チーム、4チームと増え、そのうち、参加申込みが200人、300人と増えていき、途中からはうれ



浪江のこころ通信

・第101号・

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、町内全域に出されていた避難指示は、平成29年3月31日に「帰還困難区域」を除き解除されましたが、多くの浪江町民は福島県内外に分散して避難生活を続けています。町を取り巻く状況が徐々に変化する中で、町民の皆さんがどのような思いで生活し、ふるさとへの思いを抱いているのか。

“浪江のこころプロジェクト”は、町民の皆さんの声を「浪江のこころ通信(※1)」を通して届け、皆さんの思いや暮らしぶりを発信・共有しようとするものです。

一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム(※2)が中心となり、全国各地のNPO、大学などの皆さんが取材を進め、浪江町と連携し「浪江のこころ通信」を編集・発行しています。

※1 浪江のこころ通信は、町民の皆さんがお話した「こころ」を伝えることを大切にするため、取材者が聞き取ったままとした原稿をほぼ原文のまま掲載しています。

※2 一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアムは、大学、NPO、企業、経済団体、行政などが連携したコミュニティ支援ネットワーク。仙台が本拠地。

「浪江のこころ通信／第101号」への感想をお寄せください。

【連絡先】〒979-1592
双葉郡浪江町大字幾世橋字六反田7番地2
「浪江のこころ通信」宛て
FAX 0240 (34) 4593

